



三重県ユニセフ協会機関誌

みえユニセフレター

Mie Unicef Letter 2025

Vol.22
2025.2

三重県ユニセフ協会 理事 メッセージ

辻 保彦 理事 メッセージ

三重県ユニセフ協会の理事を拝命頂いております辻製油株式会社 辻保彦です。齢81を超え、残りの人生も社会に役立つ仕事を続ける所存です。終戦⇒廃墟⇒復興⇒高度成長⇒バブル⇒崩壊⇒デフレ30年⇒アベノミクス⇒コロナ禍⇒インフレの現在まで生き抜いてきました。戦後、民主主義・資本主義旗印の元で極貧の国が大きく成長を遂げました。特に高度成長が続いた時代、多くの人々が「中流階級」と言われた言葉が懐かしく思います。しかし、バブル崩壊以降、経済的不平等の拡大や社会的階層の変化が見られ、この概念は変わりつつあります。社会に目を向ければ見えない貧困が付きまとい、多くの生活困難者が取り沙汰され、子どもたちの将来を脅かす世に、私たちは本気で直視しなければならないと考えます。



辻製油株式会社
代表取締役会長 辻保彦

企業における成長は社員一人一人のパワーから始まります。国の力も国民一人一人のパワーから始まると思います。国力とは子どもの数に比例すると言っても過言ではないでしょう。すべての子どもに満足な生活と教育を与えるのが我々大人の義務だと考えます。今、円安が及ぼす影響、インフレと言えは聞こえが良いが、物価の上昇に賃金が追い付いてこない。経済格差の時代でさらにその幅は広がりつつあります。

昔の諺に「働かざる者、食うべからず」があります。高度成長時代に使われた言葉でもありました。しかし今は物価が上がるが、それに伴った賃金は上がらない、仕事はあっても働き方改革で残業も制約される。昔を生きた私達にとっては矛盾が胸に刺さる思いでもあります。このまま進めば更なる格差と生活苦が蔓延してくると思います。どうすれば良いのでしょうか？世界に目を向ければ恒常的な貧困、紛争による貧困で常に子どもたちが真っ先に犠牲になっております。仏教の教えで「一燈を照らす」があります。一人一人の小さな善行と行動が大きな影響をもたらすと考えます。ユニセフの活躍に感謝・感謝です。

日本ユニセフ協会 団体賛助会員様(敬称略、2025/1/31 現在)

万協製菓(株)、井村屋グループ(株)、生活協同組合コープみえ、コープみえ虹の会、(株)三十三銀行、三重県生活協同組合連合会、日本トランスシティ(株)、(株)百五銀行、三重大学生活協同組合、三重交通(株)、(株)スズカ未来、辻製油(株)、(株)ユタカ開発、名四ゴルフ(株)、(株)ウエノテック、ICDA ホールディングス(株)、(株)岡田商事、(株)ミヤムラ、(株)トピア、(株)ビーイング、正和製菓(株)、(株)アイケーディー、(株)日本フェニックス、(株)ワニナル、(株)おやつカンパニー、(株)ARTS、(株)ケアクレスト、(株)日硝ハイウエー、中川電化産業(株)、(株)ぜにやH・C、九鬼産業(株)、(株)ライフ・テクノサービス、(株)夢現装建

活動報告

活動報告 9月～2月

- 2024/9/13-9/27 フレンテみえ / パネル展
 2024/9/15 コープみえ「わくわくスマイルフェスタ」
 2024/9/24 WEB/ユニセフ通常募金の力
 2024/9/26-10/24 津 松菱 / パネル展
 2024/9/29 武田名誉会長講演 / 千葉県ユニセフ協会
 2024/10/9 WEB/ユニセフ報告 / 子どもと青少年のメンタルヘルス
 2024/10/10 出前学習/大三小学校5年生
 2024/10/24 WEB/ユニセフ緊急説明会 / 「激化するガザ・レバノン、中東地域-ユニセフの取り組み」
 2024/10/30 キャラバン隊来県 / 教職員研修
 2024/10/31 キャラバン隊来県 / 阿田和中学校出前学習 / 知事表敬訪問
 2024/10/31 FM三重「ゲツモク」出演
 2024/11/1 キャラバン隊来県 / 教育長表敬訪問 / 藤が丘小学校出前学習
 2024/11/6 コープみえ虹の会 / 団体賛助会員募集
 2024/11/9 第13回とば母親大会講演「子どもの権利と平和」
 2024/11/7 WEB/ユニセフ報告会 / 「気候変動/レジリエントな未来を目指す若きイノベーター・研究者たち」
 2024/11/15-11/29 フレンテみえ / パネル展
 2024/11/19 WEB/学習会 / 上野高校
 2024/11/23 [国連原爆展in MieMu] 講演&動画「あなたにとっての平和とは～ユニセフと笑顔のひみつ」
 2024/12/8 三重短期大学学祭
 2024/12/14 ユニセフチャリティーコンペ / 三鈴カントリークラブ
 2024/12/14 伊勢市国際交流協会「日本語でスピーチ大会」
 2024/12/15 ハンド・イン・ハンド募金 / 津 松菱
 2024/12/20 ハンド・イン・ハンド募金 / 津 駅前
 2024/12/22 ハンド・イン・ハンド募金 / 四日市近鉄ふれあいモール
 2024/12/30 三重外湾漁業協同組合 / 募金活動

フレンテパネル展 2024.09.13.～27.



2024/9/15
コープみえ「わくわくスマイルフェスタ」



2024/10/30
キャラバン隊来県/教職員研修



2024/9/23
レディオキューブ FM三重



2024/12/14
伊勢市国際交流協会
「日本語でスピーチ大会」



2024/10/31
キャラバン隊来県/知事表敬訪問



2024/12/14
ユニセフチャリティーコンペ/三鈴カントリークラブ

活動報告

キャラバン隊来県 日本ユニセフ協会事務局長 & 三重県ユニセフ協会会長 ラジオ出演

昨年の10月31日、三重県の一見勝之知事へのユニセフ・キャラバン・キャンペーンで来県した公益財団法人日本ユニセフ協会 遠藤剛事務局長と三重県ユニセフ協会の会長で独立行政法人三重大学の伊藤正明学長にFM三重の夕方地元情報番組「ゲツモク」にゲスト出演していただきました。

FM三重はFM東京の系列局ではありますが、県内では唯一の民間ラジオ放送局です。「FM放送」というと中高年世代には「音楽に特化したラジオ放送で若い人が聴くラジオ」という印象が強いですが、FM三重は地方局ゆえAMのラジオ放送のような自社制作の番組もあり、月曜日から木曜日の17時から18時55分までの「ゲツモク」という番組は車通勤が多い三重県では多くの方が車の中で聴いていただいている人気番組です。

この番組では「地元で頑張っている人や団体の活動の紹介」や「地元のリスナーにとって有益な情報発信」を心がけていますが、4年に一度のキャラバン・キャンペーンに合わせ、ユニセフ協会と三重県ユニセフ協会をご紹介させていただき、広く三重県民のリスナーにユニセフ活動の意義や存在を知らしめたいと考え、タイトなスケジュールの合間に当社にご来社いただき、収録させていただきました。

遠藤事務局長は相当場慣れしているのか何食わぬ顔をしつつ、きっちりとユニセフの歴史や日本ユニセフ協会の活動の話され、逆に日々、地元新聞やテレビ局の取材慣れしているはずの伊藤学長の方が緊張されている風にも見えた事が意外でした。

短い時間のささやかなゲスト出演でしたが、それでも通勤帰路途上の三重県内の多くのリスナーにその活動が聴かれて、さらにはそれが心に残り、日々、地元で活動している三重県ユニセフ協会の一助になれば、これほどの幸せはありません。



三重県ユニセフ協会 評議員
三重エフエム放送(株) 代表取締役社長
川島博志

川島博志



世界のニュース

ウクライナ危機3年 2,520人以上の子どもが死傷

「5人に1人が近親者か友人亡くす」ユニセフ発表

2024年に3年目を迎えた本格的な戦争は、ウクライナの子どもにとって、その前年よりもさらに死が身近に迫りました。2024年の子どもの死傷者数は、2023年と比較して50%以上増加しました。2022年2月以降、2,520人以上の子どもが死亡または負傷しています（死亡669人・負傷1,854人、2022年2月24日～2025年1月31日の集計）。これらは国連が確認できた子どもの死傷者数のみのため、実際数はこれよりはるかに多いと考えられます。過去3年間で、1,600以上の教育施設と790近くの保健医療施設が損傷した、または破壊されたことが確認されています。子どもや若者は戦争により深刻な喪失や剥奪に遭い、人生の非常に重要な段階における発達やウェルビーイングに影響を受けています。



© UNICEF/UNI738309/Filippov
南部の主要都市ヘルソンで暮らすアンドレイさん（10歳）
昨年の冬に父親を亡くし、「僕がママを支えたい」と話す
（ウクライナ、2025年2月9日）

戦争しか知らない子どもたち

生まれてから3年間の経験は、生涯の健康と学びに影響を与えます。しかし、ウクライナの3歳の子どもは戦争しか知りません。親たちは身体的にも精神的にも疲れ果て、家庭生活に影響が出ていると訴えています。幼い子どもとその親が頼りにする必要不可欠なサービスも、戦争によって妨げられています。ウクライナの子どもや若者にとって、青年期もまた、特に厳しい時期です。10代の若者のほぼ3分の1が、あまりの悲しみや絶望感から、日常的にしていた行動をとらなくなると報告しています。こうした心の動きは、女の子においてより多く見られます。ウクライナの子どもや若者のメンタルヘルスの問題は、孤立により悪化しています。多くの子どもが、絶えず地下室に何時間も避難しているため、人との交流や学習の機会を失っています。40%近くの子どもが、オンラインのみ、または対面と遠隔を組み合わせた授業で学んでいます。学習への影響は深刻で、読解で平均2年、数学で平均1年の教育損失が生じています。



© UNICEF/UNI735778/Filippov
マリウポリで生まれたイエホルちゃん（3歳）
生まれてからずっと、安全な場所を求めて避難する
生活が続いている（ウクライナ、2025年1月19日撮影）

命を守る支援を提供

ユニセフはウクライナ全土のパートナーと協力し、最前線地域に暮らす子どもに、保健ケアや安全な水、現金給付、教育、子どもの保護サービスへのアクセスなど、非常に重要な、命を守る支援を提供しています。また、水と衛生にかかわる配給網の修理や復旧を行うとともに、子どもがいる家庭に、厳しい冬を乗り切るための燃料や衣類へアクセスできるよう支援しています。同時に、ユニセフはウクライナ政府やパートナーとともに、子どもとその家族のための仕組みを強化することで、復興と長期的な開発を支援し、社会的結束を築いています。これには、子どもの保護と社会的保護、保健、教育の各システムが、基本的な支援、ケア、機会を適時に質の高い状態で子どもに提供できるよう担保することが含まれます。現在、世界中で686万人のウクライナ難民が登録されており、そのうちほぼ100万人がポーランドに居住しています。難民の子どもにとって、学校教育へのアクセスは依然として課題であり、受け入れ国で暮らす、学齢期の難民の子どもの半数は、国内の教育システムに登録されていません。これは、子どもの学習機会や仲間と交流する機会を奪うだけでなく、ウクライナ復興に重要になるであろう必要不可欠なスキルを身につける機会を奪うことにもなります。

（日本ユニセフ協会ホームページより抜粋）



© UNICEF/UNI691525/Pecherytsia

ユニセフ支援の家庭訪問プログラム。遠隔地に住む親子のもとへ看護師が訪問し、子どもの発達を支援している（ウクライナ、2024年10月14日撮影）

発行：三重県ユニセフ協会

（事務所開設日：月・水・金 10時～17時）

TEL：059-273-5722 FAX：059-273-5758

〒514-0009 三重県津市羽所町379 コープみえ本部ビル1F

E-mail: mie-unicef@sweet.ocn.ne.jp

ホームページ： <http://www.unicef-mie.jp>